

# 前庭疾患とは

前庭疾患は脳の中でも平衡感覚を司る【前庭】に何らかの異常が生じることで突然起きる疾患です。高齢の、特に柴犬や日本犬MIXの子に多く見られますが、どの犬種でも起こり得ます。

原因は様々で、中耳炎、内耳炎、頭部へのダメージ、耳道や脳の腫瘍、甲状腺機能低下症、脳の炎症や脳梗塞、一部薬剤への中毒などがあります。これらを除外してなお原因が特定できない場合は【特発性前庭疾患】と呼ばれます。

## 《症状》

- 眼振
- 旋回行動
- 捻転斜頸
- ヨダレが出続ける
- 嘔吐
- 食欲不振
- 転んで立ち上がれない

※強い症状は発症後3日程度続くことが多いです。  
※ほとんどの症状が良くなっても、軽度の斜頸だけ残ってしまうことがあります。

ねんてんしやげい  
捻転斜頸  
一方の目の高さが低くなる



せんかい  
旋回  
一方へ円を描くように回る



がんしん  
眼振  
意思と関係なく、目が小刻みに揺れる



## 《治療》

特効薬が無く、原因に対しての治療や対症療法を行います。吐き気があると飲み薬が難しくなるので吐き気止めの注射を使うことが多いです。食事を摂れない間は脱水を防ぐために点滴に2~4日ほど通っていただいています。



## 《お家でできること》

### ◆ 食事・飲水の補助

斜頸があると自力でごはんを食べたり水を飲んだりすることが難しくなります。誤嚥を防ぐために頭を高くしてあげて、流動食~お団子状のごはんをゆっくり食べさせてあげてください。お皿から食べられるようになって、端っこの方がうまく食べられない場合があります。

### ◆ ケガの防止

旋回行動をしているうちに家具にぶつかったり、転んで立てなくなってしまうことがしばしばあります。サークルの周囲をクッション材で覆うことで、あちこち行ってぶつかったりすることを防いだり、立てない間は床ずれにならないように厚いお布団で保護してあげましょう。

### ◆ トイレのサポート

寝たままおしっこをしても体が汚れにくいように、吸水性の高いペットシーツを敷き詰めてあげましょう。グルグル歩いているうちに排便して自分で踏んでしまうこともあります。

慌てて抱き上げて足を洗おうとするとパニックになることがありますので、部分洗い出来るグッズがあると便利です。

普段お散歩で排泄をする子は、自力で立てなくてもなかなか室内で排泄をしてくれないこともあります。タオルで体を吊り上げるようにして歩行を補助してあげることで排泄をしてくれるかもしれません。